

- ▶ 森林経営管理制度に取り組むうえで、市町村の担当・専門職員が少ない等実施体制が課題となっており、精度の高い森林情報や、事務の効率化につながる仕組みが重要となっている。
- ▶ 秋田県では、これまで、森林情報を一元的に管理できるクラウド型森林GISを導入し、市町村や事業者も参画しての運用を行っている。
- ▶ 令和元年度は、森林GISへの林地台帳連携管理機能や施業履歴等の管理機能の追加を行ったが、令和2年度においては、林道・作業道管理機能等の追加、森林情報公開サービスの開始、森林GISを登載したGPS機能付きタブレット端末の導入を実施した。
- ▶ 令和3年度においては、航空レーザ計測による森林情報のデジタル化を進めて行くこととしている。

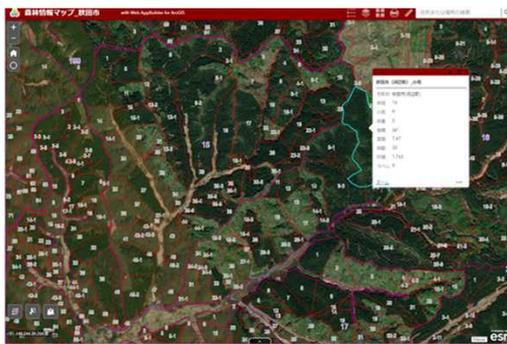
□ 事業内容

森林情報の高度化等による市町村支援

- 森林整備等の計画を効率的に進めるために必要となる林道・作業道管理機能を森林GISに追加。
- 森林所有者が所有林の位置や資源状況をインターネット環境下で手軽に確認するための森林情報公開サービスを開始。
- 現地で容易に森林情報や位置を確認するため、森林GISを登載したGPS機能付きタブレット端末を導入し、市町村の現地調査等を支援。

【事業費】 16,199千円（全額譲与税）

【実績】 クラウド型森林GISへの各種機能の追加、県webサイトでの森林情報の公開、出先機関へのタブレット端末の導入を実施。

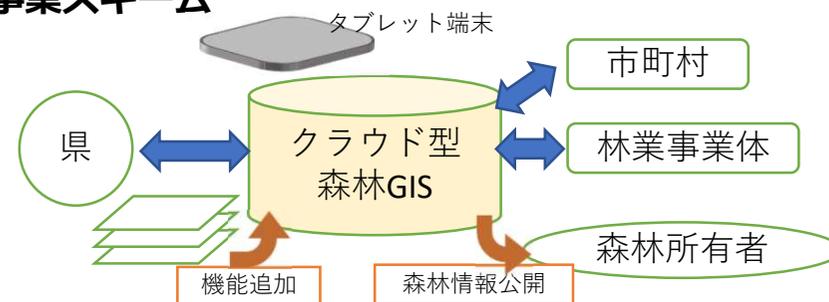


（webサイトでの森林情報の公開）



（タブレット端末を活用した現地調査）

□ 事業スキーム



□ 工夫・留意した点

- 森林・林業に明るくない所有者でもわかりやすいようにシンプルな構成とした。
- タブレット型端末は、普段使用しているクラウド型森林GISをベースにタブレット版を構築し、職員が操作しやすいものとした。

◇ 基礎データ

①令和2年度譲与額	148,848千円
②私有林人工林面積（※1）	177,893ha
③人口（※2）	1,023,119人
④林業就業者数（※3）	2,369人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、
 ※2：「2015農林業センサスより、3：「H27年国勢調査」より